

平成30年度第1回南部地域政策総合会議 会議録 概要

1 開催日時

平成30年9月10日（月）午後2時30分から午後4時30分

2 会場

徳島県南部総合県民局 阿南庁舎 大会議室

3 出席者

(1) 政策総合会議委員 15名（5名欠席）

① 地域住民代表委員 14名

青木委員 井上委員 大城委員 尾崎委員 兼松委員 栗田委員 小林委員
酒井委員 霧 委員 中川委員 橋本委員 濱崎委員 平井委員 町田委員

② 県委員 1名

折野南部総合県民局長

(2) 管内市町長 4名

岩浅阿南市長 坂口那賀町長 福井牟岐町長 影治美波町長

4 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

- ①平成29年度の「徳島県南部圏域振興計画」の実施状況について
- ②平成29年度の「南部圏域課題解決プラン」の評価について
- ③平成30年度の「徳島県南部圏域振興計画」の取組みについて
- ④「徳島県南部圏域振興計画」及び「南部圏域課題解決プラン」の変更案について

(3) 意見交換

(4) 閉会

5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議設置要綱
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議委員名簿
- ・ 平成30年度第1回徳島県南部地域政策総合会議配席図
- ・ 資料1 平成29年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価（概要）
- ・ 資料2 平成30年度徳島県南部地域政策総合会議 計画推進評価部会報告
- ・ 資料3 平成30年度の「徳島県南部圏域振興計画」の取組み
- ・ 資料4 徳島県南部圏域振興計画（案）
- ・ 資料5 南部圏域課題解決プラン（案）

〈発言要旨〉

(A委員)

いつもながらの1番のご指名ありがとうございます。Aでございます。どうぞよろしくお願いたします。今日は2点だけ申し上げたいと思います。

まず1点目でございます。1点目は観光振興等に関する意見でございます。まずうれしいことに徳島に香港とのキャセイドラゴン季節運行が12月から始まるという記事が出てございました。来年の3月27日まで週2回、計29往復58便ということでございます。

非常にうれしいこととございまして、これは県南振興の取り組み、まさにですね、先ほど事務局からご説明がありました資料3にあります、この観光の地域につなぐためのインバウンドの上昇の一つの大きな流れが来ているのではないかとというふうに考えております。当然、インバウンド、来ていただくと同時にアウトバウンドですね。双方の交流が必要と考えております。特にインバウンドについては、県南部地域におきましては、県南の豊かな自然、伝統、文化、郷土料理など県南ならではの資源を活かして、魅力を体感する、着地型の体験型観光振興が鍵だというふうに考えております。

その中でもやはりですね、いつもこの会議でもご意見させていただいておりますとおり、私個人的にはDMV。実は先般、阿佐東線のDMVの「あさてつワクワク体感ツアー」というのにこっそりと参加をさせていただきました。実は知事も、もう一つの企画で同時に会って、ついにばれたかなというふうに思った次第でございますが、やはりですね、着地型、実際にDMVとその現地でどういうふうに行っているのかと、それを未来ある子どもたちに体感させ、未来につなげていく施策づくり、そして人材づくり等が必要なんじゃないかなと考えております。そのためには四国の右下はDMOの観光推進の人材づくり、それと観光のマネジメント研修とか塾の開催ですね。そういったのを絡めていくことが次世代においても非常に大事なんじゃないでしょうかと考えております。

そして、隣の県なんですけど、今、非常に注目を浴びてる施設があります。皆さん知ってますとおり「むろと廃校水族館」というのがあって、開館されてございます。なんとこれ、室戸市、この開館して約1カ月で入場者数が1万人を越えたというふうに報道等を見た限りでございます。私もここを注目してますので、近日中には行きたいなというふうに考えてございます。だけど、これ、ただ行くだけじゃなくて、ぜひともですね、これをDMVで行けるようにやはり室戸ルート、以前も発言させていただきましたが、これでさらに室戸ルートの観光の資源というのは非常にプラスアップしたんじゃないかなというふうに個人的には考えておりますので、ぜひともですね、DMVをオリンピックまでに営業運行できるようにこぎ着けていただきたいなと考えてございます。

もう1点でございます。私は阿南防災士の会に所属しております。やはり日本を襲う大災害、今は台風21号、そして北海道地震、そして、先般は平成30年7月豪雨という災害に見舞われてございます。ぜひともですね、この災害対応、もちろん、県南部は南海トラフ巨大地震を迎え撃たなければなりません。以前「東京防災」という本、これは実は阿南市長から阿南防災士の会のみんなに頂いたもので、かなり読み込んでぼろぼろになりました。そして、今は「東京防災」はアプリにも入っております。ぜひともですね、徳島県として、これは危機管理として、「徳島防災」というのを作ってほしい。何故かというところ防災は色んな所に情報取りに行かなきゃいけないんですね。そうすると、あの情報も入っ

てきて、この情報も入ってきてという情報の一元化がやっぱり必要であるというふうに考えてございます。その中でインバウンドのお話をさせていただきました。先般、台風21号で関西国際空港で閉じ込められてしまった外国人の方がやはり何が困ったかという、情報ですね。やはり情報が取れなかった、伝達ができなかったという記事を読みました。

ぜひともですね、県といたしましても外国人向けの情報発信、すだちくんメール等においても、多言語のメール等、外国人観光客に対するシステムの構築が必要なんじゃないかというふうに考えてございます。ぜひとも、これはインフラ・交通面、また避難所に関する開設情報、また停電・断水の状況等、最低この三つぐらいはですね、多言語で発信ができるような、これはシステム構築が今後かなり必要なんじゃないかなとかと。インバウンドがどうだって言っても外国人に危ない県南に来てくれと私は言えません。やはりそういった制度は非常に大事だといったことをこの場で申し上げたいなと考えております。やはり今後は AI・IOT を使った、外国人向けのシステム構築へ着手していただきたいなと思っております。

最後の最後に宣伝を一つだけお願いします。そのインバウンド等におきまして、現在、阿南市新野町で「シームレス民泊」推進してございます。先般は「わくわくトーク」にも知事にも来ていただきまして、ありがとうございます。ぜひともですね、新野シームレス民泊、今年度のテーマ、まさに外国人宿泊客へ向けての災害対応訓練を11月10日に行う予定でございます。これは実は調べますとですね、民泊が施行されて、まだどこも民泊に泊まっている外国人に対する訓練はした所は国内にはございません。ずばりこれを11月10日にとすると日本初、もちろん徳島県初ですね、外国人向け対応の訓練というふうに銘打って頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞ、皆さまご注目ください。以上でございます。

(B委員)

牟岐町のBです。そうですね、前日も DMO についてお話しさせてもらって、民間との連携をというふうにお話をさせてもらったんですけども、これから実際に「おもてなしセミナー」などのセミナーを開催していくということでもかなり期待をしております。私も今、地域密着型の着地型の体験宿泊施設を作ろうと思って、今動いているところなんですけれども、新民泊法ですとか旅館業法が改正されて、かなり規制が緩くなっていて、許可が取りやすくなっているというのをすごく実感しました。ただ、取りやすくなって、次にどうつなげていくかっていうところはこれからだと思っております。

この DMO についてなんですけれども、体験っていうところを考えていくのが大事なんですが、今、民泊とか旅館業法で、宿を取る所っていうのは最初の規制があって、その基準を満たして OK サインをもらった後というのは、やり取りがそこまでないというふうにお伺いしていますので、その後のフォローっていうのがまだ少し足りないのかなというふうに感じました。DMO でも旅館施設だったり、宿泊施設ですね、体験するにあたって、かなり大事な要素になってくると思っているので、その後の旅館同士をつなげていく、また体験同士をつなげていくっていう取り組み、交流会であったり、研修会というのをもっと力を入れて、私たちも含めてやっていく必要があるなというふうに感じています。

また、伝統文化というところで、70代、80代の方々がやはり技術を持っていて、牟

岐町で言えば、あんどん作りとか地域の資源を活かそうと動き始めているんですけども、高齢化が進んでいて、担い手がいなくて、地域の再建のためにどうしたら良いかっていうところを今模索している段階です。そういったところに、若いインターン生だったりとか、移住者をもっと関わられるような仕組みっていうのを、もっと作っていく必要があるかなというふうに今感じながら動いています。

県南部では、南部総合県民局が中心になってコーディネーターをして、県南部の阿南から海陽町までの企業さんでインターンを受け入れています。ETICっていう会社が全国各地の大学生を集めて、各地域の企業さんの課題解決のために送るという形を取っているんですけど、そこでちょっと感じたのが、県南の連携っていうのをインターン制度を通して話すような研修だったり、交流会、どういうふうに外部の人を受け入れて、それを地域につなげていくかっていうところを考える研修会があれば良いのかなというふうに感じました。

この二つが、今、私が感じているところで、東京オリパラやワールドマスターズゲームズを見据え、観光客に向けての取組っていうのが県南全体で藍染めだったり、サーフィンだっぴりを中心はかなり進んできていると思うので、あとは、もう少し交流・連携っていうところを民間と行政とが繋がってやっていけたらなと感じております。

(C委員)

阿南中央漁協のCと申します。よろしくお願ひします。漁業組合の漁業関係の代表として、この場に座らせていただいているんですけども、その部分ではなくて、一市民、県民として発言させていただきます。最近ですね、頻繁に災害が起こっておりますので、身近なことで言わせていただくと、阿南市の市長もおいでになります、地域に、阿南市の那賀川町ですが、防災のスピーカーがあります。それで避難してくださいという指示が出たり、この前の台風21号のときも、たびたび早めの避難指示等を出されておりました。このスピーカーですが、地域の住民の方からよく聞く話で、私自身もいつも感じるんですけど、聞こえにくいんです。雨が降っている中だと特に聞こえにくい。那賀町などは、防災無線が各家庭にあるっていうことをお聞きしました。そうでしたら、家の中で聞き取りにくい年配の方にも聞き取りやすい状況ができるのかなと。阿南市で全家庭に付けるっていうのは資金面でも非常に難しい話ではあるんですけども、年配の方からとか、独り暮らしのご家庭からとか、そういった状態で防災無線を付けていければ良いと思います。それとスピーカーの位置、今の場所ですべての内どの程度の人が聞き取れているのかということも再調査していただいて、実際の状況をもう一度確認していただけたらと思います。増設等も返事をいただきたいと思います。

それと那賀川町は避難場所がないんです。平野部なので高い所がありません。昔から津波はここに来ないだろうという安易な考えがあるんですけども、最近、想定外な状況がよく言われておりますので、避難場所指定が普通の民家になっているとか、そういう状況があります。小高い丘に防災公園も作っていただいたりもしていますが、それだけではまだちょっと足りないと思います。私たちはどこに逃げたらいいんだろうというのを常に話しております。ですので、もう少し進んだ形で災害対策を、平野部、山間部色々ありますけれども、考えていただけたらと思います。よろしくお願ひします。

それと最後に「漁業版 BCP」というのをこのたび作成させていただきましたが、県の方のご指導もあり、作成した次第なんですけれども、その中でうちの漁業組合が被災した場合、隣の所に助けを求めることになっています。ですが、津波の場合は県下全域が被災してるんじゃないかなと、海岸沿い、うちが被災しているということは隣も、ひどい状況なんではないかと思えます。県が大規模な災害があった場合に、関西の方と連携を取られているっていうのは知っているんですけども、こういう BCP を作りなさいっていう機会を与えていただいて、私たちも災害のことを考えたときに、個別によその県外の漁業に行って、こういうときは助けてくださいってお願いして回るのは難しいです。ですので、あそこの県と連携を結んでいるので、その県の漁業組合と、という情報が先に入っていれば、動きやすいのではないかなと感じます。県、行政側の方が、他の県とか地域とかとの橋渡しをしていただければありがたいかなというのが正直な意見でして、提案させていただきます。簡単ではございますが、よろしくをお願いします。

(D委員)

はい。Dです。よろしくお願いいたします。先ほど「南部圏域振興計画（案）」のところで、何かございませんとおっしゃってくださったときに発言すればよかったんでしょうけれども、資料4の25ページなんですけれども、県内で行われてる主な祭りっていう所で阿南市がですね、橋のけんかだんじりと椿泊のだらだら祭りって入っているんですね。それで、八幡神社の秋祭りなども入ってるのであれば、加茂谷の鯉祭りとか西部公園の七夕祭りもぜひ入れていただきたいなと思うんです。次はその辺よろしくお願ひしたいと思ひます。

それで、意見なんですけれども、防災の面から一つ、ずっとお話しさせていただいてるんですが、畑田地区、平山地区っていうのは本当に台風が来るたびに道路がなくなってしまうっていうことで、畑田川の改修を早めていただきたいっていうことが一つなんです。平成28年に県から出された、土石災害ハザードマップというものの中で平山、畑田地区が警戒地域になっているにも関わらず、道路がなくなったらどうなるんだろうかっていうのが、地域住民の話し合いの中で出てくる話なんです。ですから、是非その辺ですね、岡川の改修が50年近くかかっても、さっぱり進まないようでは困りますので、ぜひ進めていただきたいなと思ひます。

次にまちの創生ということで、観光の面なんですけれども、やはり徳島遠いですよね。阿南遠いですね。昨日も私、仙台から帰ってきたんですけども、伊丹空港からの高速バスが時間がかかりすぎますよね。それに思うように予約が取れないんですよ。やはりその辺を改善しないと、観光客の誘致っていうのはなかなか難しいんじゃないかなと思ひます。徳島空港が広がっているので、地方空港との便をもっと増やしていただきたいなっていうのが希望でございます。

それともう一つは農業なんですけれども、今、高齢化が進んで、荒れた土地が多くなりつつありますよね。集団でやはりどこかが請負農業団体みたいなものを作っていただくような形で、それを県がちょっと手助けしてくださったら、できるんじゃないかなと思うんです。それによって、耕地が荒れるのが減っていったら、水害も少しは減るんじゃないかなと、素人考えではあるかも分かりませんが、思ひます。よろしくお願ひした

いと思います。以上でございます。

(E委員)

阿南商工会議所のEと申します。県南の商工業振興ということでご意見を述べさせていただけたらと考えております。徳島県全体で見ましたら、県南のほうは非常に大手の流通業者、外食ひっくるめて非常に遅れている状態でごございましたけれども、小松島市ひっくるめて、県南のほうにおきましても、やっとなと申しましょか、だんだん大型の店舗、ナショナルフランチャイズ等が出店するようになってまいりました。

物販におきましては県外の流通関係の大型店、また宿泊、街商サービス業におきましては直営、フランチャイズひっくるめましたナショナルチェーンが出店するようになってまいりました。地元の商工業者に見ましたら、どうしても反対して大手の出店を食い止めたいたいところはあるんですけど、やはり地元の消費者の意見を聞きますと、やはり大型店ができたほうが便利だからという方が多いので、やはり共存・共栄を図るしかない、手前ども地元の商工業者のほうも考えております。それで、地元の既存業者と、これから新しく出店する大型店舗との地域振興におきまして、手をつないで共に県南のほうが発展できればということを考えております。

まずその一つといたしまして、阿南市、それから那賀町、それから南の方とひっくるめまして、出店時にはこれも必ずということをお願いしたいんですけども、県の方から、もしもお声掛けをいただけるのであれば、出店、開発許可をおろすような条件として、各地域の商工会、そして阿南におきましては商工会議所等に入会する。そして各大型店舗の店長さんなり、副店長さんに地元の商工業者の窓口はうちは副店長がやります、うちは店長がやりますよ、部長がやりますよという、専任する方をお願いできたらどうかと考えております。

それと食品関係におきましては、南でしたら阿南保健所、それから美波の保健所になってきますけれども、保健所を中心といたしました食品衛生協会の会員、これから新しく出店する大手の業者、飲食店、それから食品加工業者は、食品衛生協会の会員となって、地域住民の食の安心・安全のための地道な活動に参加していただけたらと考えております。今、既存業者は後継者だけでもなかなか見つけにくい状態でございまして、今、食品衛生協会におきましても、後継者の問題が非常に難しくなっております。やはりある程度、これから元気のある、新規出店なさる大手の業者の方にも食品衛生協会の会員となって、地道に地域の活動に参加していただけたらと考えております。あと、それから地域に根付いた行事、祭り、季節のイベント、ボランティア等で各地域の既存業者と同じように活動していただけたら、なおベターかなと考えております。あと、地域の同業者、異業種交流会への積極的な参加もお願いできればと考えております。

2番目といたしまして、新規学卒者採用に関する地元の中小企業への支援ということで、雇用確保のためには、今、新卒者を採用するためにはインターンシップ、また教育事業への取り組みを促進させる必要があります。市内の中小企業がインターンシップ等を行った際、企業側が負担する学生にかかる交通費、宿泊等の経費の助成も行っていただければ幸いかなと考えております。今、阿南商工会議所におきましても、インターンシップ委員会というのを1年前から立ち上げまして、県南の各高校の就職担当の先生方と意見交換会を

行ったり、ハローワークの新卒担当者をお招きして、勉強会等の開催をいたしております。今月の17日にも、高知県でインターンシップ等の先進地がございますので、そちらのほうにお邪魔してどういったかたちでインターンシップを活性化しているかという意見交換会に参加する予定でございます。私の友人で自動車関連のラインのロボットの下請けをいたしておるD社という会社がありまして、そのY社長さんという方がいらっしゃいますけど、その方とインターンシップの話をしておりました。その方は阿南が地元で、阿南市の業者ですので阿南高専さんの4年生の方、3年生の方をインターンシップで、夏休みに2、3週間、ここ10年ほど、毎年ではないんですけど、阿南高専のほうからインターンシップを受け入れて欲しいという要望がありましたら、インターンシップを受け入れたようです。それで、去年のちょうど秋口に「Y社長さんいらっしゃいますか」と若い方から電話があったらしいんです。電話を取り次いでいただいて話を聞きますと「社長さん、私のことを覚えていますか」ということで、よく話を聞きますと10年ほど前に、阿南高専を卒業した方で、ちょうどその方が4年生の時に、そのD社で3週間ほどインターンシップを受け入れていただいたらしいんです。5年生になって、就職を考えるときに、親や学校の教授の方と相談して残念ながら地元の業者、D社に就職せず、県外の大手の企業に就職したということでしたが、10年前にインターンシップを受けた時にD社の社長の志とか、それから従業員の方の本当に仕事に取り組む真摯な態度を見て、万が一自分が勇退して地元の阿南市に帰ってきたら、ここの職場で働きたいなということを痛感なされたということで、電話あって、「もしも私のような人間でよろしければ、もしも今まだ中途採用を採用してるようであれば、受けてもらえませんか」と問い合わせをいただいたそうです。

今までは阿南高専とか徳島大学の学生さんをインターンシップで受け入れても、ただ学校側の都合で受け入れるだけで、なかなか自分のような中小企業に就職していただくことはできんというのが頭にあったんですけども、10年前にやった努力が今無駄ではなかったということで、本当に思わず目頭が熱くなったという話を聞かせていただきました。やはりそのあたり、小さなことから始まると思いますので、インターンシップ等、教育にも県の方から助成等がありましたら幸いかと考えております。

3番目といたしまして、中途採用者の絶対数が不足しているということです。手前どもの会社も外食、ホテル業なんですけれども、毎年、定期的に新卒者の採用を試みております。おかげさまで、ここ10年間ほどは毎年、多い年で3人ぐらい就職していただいております。今年も何とか9月の5日に高校の先生方が、またよろしく願いますということで2人ほど求人票をいただいて、今月の17日には入社試験を開催する予定となっておりますけれども、毎年2人、3人では手前どもの業種もなかなか人手を確保することができません。やはり中途採用者の採用というのが非常に重要になってまいります。働き方改革を基本といたしまして、これからはやはり高齢者雇用、障害者雇用、それから外国人労働者、研修生、実習生、今は実習生って言うんですかね。海外からの労働者と多岐にわたる労働者の採用方法を、これから中小企業も勉強をしなければいけないと考えております。やはりそのあたり中小企業は十分な知識もございませんので、もしも県のほうを中心とするといった勉強会があれば、高齢者を採用する場合にはこんな方法、障害者を採用する場合にはこんな方法、外国人労働者を採用する場合にはこういう方法があるよという、そうい

った勉強会も県の主導で開催していただければ幸いかと存じております。あと従業員定着促進のための労働環境に改善する支援ということで、福利厚生施設の充実を図るための取り組み支援、また補助金活用等の勉強会も開催していただければ幸いです。以上でございます。

(F 委員)

F と申します。海陽町で3年間、地域おこし協力隊として活動させていただきました。先月で任期が終了して、自分の中でもそういう葛藤があったんですけども、自分が感じた魅力を発信していくためには外に出て発信することも大事だと思い、ローカルプロデュースという会社で、徳島県の食材を販売して発信していく仕事を今月から始めます。それから引き続き、海陽町と南部の魅力を伝えていくためにどうしたら良いかということについて考えて活動していきたいと思っております。

関係人口の増加について資料にもあったんですけども、私自身が今回関係人口の一員になったわけなんですけども、外に物を売り外貨を稼いでいくためには、また観光客に訪れてもらうためには、その町を知っているだけではなくて、何らかの良い関係を築いていることが必要だと思っております。それが外から外貨を獲得するときに一番重要なポイントだと感じています。自分自身も地域おこし協力隊の活動の中で外の方たちに次々来てもらって、ツアーを開催するとかっていうことをやったことがあるんですけど、やっぱりそのときに来てくれた人たちが、一番こう、関係人口になってくれやすいポイントだなと思ったのが人との関わりで、人との関わりの中で感じたこととかっていうのを、自分の住んでいる所に戻ったときに、何を、どれを買おうかなって迷ったときに、この人、この海陽町の産品が出てるってなったときに自分が行ったことのある、出会ったことのあるものだから買いたいっていうふうな動機になりやすいと感じました。それで今後、DMOを進めていく際にもその魅力を伝えて、観光だけで終わらないような取り組みにしていっていただきたいと思っております。

もう一つ、移住、定住に欠かせないことだと思うんですけど、南部圏域で移住者を獲得していくためには、「趣味と仕事」っていうのがキーワードになってくるんじゃないかなと考えます。他の地域だと、神山町とかは、都会のストレスがなく、忘れさせてくれる環境で、田舎でも仕事ができる人たちが集まっていると思うんですけども、県南部では趣味を仕事にしている人が多いなという印象を受けていて、どこの地域も人手不足で悩んでると思うんですけど、そういう地域だと、1人が請け負う業務というのはどうしても多くなってきてしまうと思います。その中で週休3日制とか、残業がないとか、給料は従来通りというような条件の人材っていうのは、地域からしても受け入れがたい状況なので、そこを目指すのではなくて、趣味を仕事にしてる、やりたいことを仕事にして、仕事が楽しくてたくさん働きたいっていう人たちを、県南部に呼ぶっていうことが大事なんじゃないかと思っていて、農業や漁業とかは特に大自然の中でストレスを感じずに作業を行うこととか、愛情をかけて作ったもののおいしく、きれいにできることにやりがいを感じるっていうことも聞いているので、そういうところを押し出して行って、今、「趣味を仕事に」を実現してる人たちはどんな仕事について、どんなライフスタイルで、町の人たちはどんな応援をしてくれるかを外に伝えていくことが必要だと思うので、そういう伝え方をしてい

っていただけたらと思います。以上です。

(G委員)

Gです。今日東京から帰ってきたばかりで、羽田から直行しました。昨日、ほかほかの移住の日本最大の「ふるさと回帰フェア」っていう国際フォーラムがあったんですよ。それが日本最大で、一番新しいこと、どんなことが今起こってるかを知れる機会で、ちょうどありがたいです。県の方はじめ、市町村、町村の方もいらっしゃるので、そのちょっとご報告したいと思ってます。

実は四国では香川がナンバーワンだったんです。行列のできるうどん屋さんぐらい、並んでたんですよ。それがもう負けてませんから、今、徳島。今まで寂しかったんです。岡山、広島、香川にはもう完全に負けてて、ものすごいつらかったんですよ。高知も愛媛も、皆さんどことも力入れてるんで、これつらいよと思ってたんですが、おかげさんで、じわじわがもう本当にじわじわが効いてきましたんで、やっとやっともう40年近く移住のことやってて、やっと効いてきましたよ、本当に。ですから、ここに今まで話し聞いてて、移住のこと言ってくださったり、皆さんしてくださってるんですけども、決してあきらめることなく頑張っていくましよう。それと花火みたいなことは絶対やめてほしいと思っます。じわじわ行ましよう。

昨日、50組も来てくださったんですよ、ご相談に。その中で何が一番良かったかって、私がこういう方たちに来て欲しいなと思うのが、「ゆかり」のある人です。去年はCCRCがあつて、「ゆかり」っていう言葉が入ってましたよね。それが今年になったら「ゆかり」が消えてるんですよ。Uターンっていうのは「ゆかり」なんですよ。夫のほうのUターンはUターンに入るんですけど、妻のほうのUターンが入ってないんですよ。徳島って女がすごい強いんですよ。私もそうなんですけど、夫を連れ帰ってくる。母親の力がすごく強くて、帰ってくるんですよ。昨日も父親の里の墓があるとか、E委員の話にあったように、昔仕事で世話になったとか、「ゆかり」のある方が来てくださるとものすごい話がスムーズです。それでね、移住してきたときに、多分この中にも移住者の方いらっしゃると思うんですけど、「徳島のどこそこなんよ」とか言うと、これだけで一気に移住者になるんですよ。殻が取れるっていうのあるので、ぜひぜひ今度「ゆかり」をもう1回入れ直していただけますかっていうことをお願いしたいんです。施策の中にね。そうすると、移住のことやってる側としてはものすごいやりやすいです。安心ですよ。本当に。それともう1つ。空き家のことですけども、去年まではトイレトイレと思ってたんですよ。浄化槽とか。もう古民家やめましよう。本当に。何が起こってると思います。台風ですよ。豪雨ですよ。雨漏りなんですよ。雨漏り直すのになんぼお金いますか。無理です。もう移住者の人、古民家をなんかきれいにするのやめて、屋根にお金かけてほしいですね。ほんま笑い事ちゃうんですよ。ほなつて、800万も古民家にお金かけてやった移住者が民宿やってるんですけど、なんと雨漏りで廃業ですよ。直せんのですよ。800万かけて、2200万、300万いるんですよ。古民家やから。そこら辺も今後、施策の中に入れていただいて、こんだけ災害が来てるんですから、地震がゆったら屋根一発ですからね。もうトイレは言うのやめます。屋根にします。今度からほんとに。それも頭に入れて、今後やっていっていただきたいなと思っますので、よろしくお願ひします。移住のほうは頑

張りますんで、今後ともよろしく願いいたします。

(H委員)

Hです。自主防災連合会が勧誘が進まないということは、私たち自主防災と関係ある人間は本当に残念に思います。それから9月10日に台風21号、県南部に上陸、縦断して、9月6日には北海道で最大震度7の地震。たくさんの方が亡くなりました。まずこの人たちにお悔やみを申し上げたいと思います。最近の台風は進路が逆走したりと、今までの常識では考えられないことが起こっています。高潮の被害もあり、各地で本当に深刻な被害が出ています。

最近のこの状況を見ると、日本大丈夫かな、自然に勝つことはできないんやろかと思わざる得ません。自然の力にはなかなか勝てないかもしれないけど、ただ指をくわえて待っていたのでは、何にも答えは出てこないと思います。色々な角度から検証していただき、研究している先生方にお知恵をもらい、何らかの方法考え、少しでも被害を少なくすることができると思います。まず検証することが大切で、官民一体、連携して自然災害に立ち向かうしかないと思います。台風21号のときに、連携してる阿南市福井町の方はすぐ連絡してくれました。「大丈夫？私らは大丈夫よ」と。LINEや電話でいつも連絡を取り合っています。だから、こういう連携意識ということが、やっぱり大事ではないかと思います。ちょっと暗い話ばかりですけど、ちょっと夢のある話をしたいと思います。6月27日、南部地域に皇太子殿下が来られました。美波町には日本最古の碑「康暦の碑」があります。研究熱心な殿下は南部に行って、一度この碑を見たかったとおっしゃいました。やっぱり、この碑は先祖が大切に残してくれた碑なので、自分たちはこの碑を守る使命があります。今の由岐小学校の生徒が地震、津波、歴史を熱心に勉強しています。徳島大学の先生に講師に来ていただき、3Dプリンターで碑を作って勉強しております。

そして、せっかく皇太子殿下が来るということで、子どもの意見を聞いてきますと「皇太子に手紙を書きたい」と言うんです。これは良いことやなと思って、連絡入れたんですけど、やっぱり色々な被災地の人も子どもおるし、色々なところがあるから、これはここで遠慮してくれと言われてたんです。それでも、この子らはこういう夢を持って頑張っております。次の世代にこの夢を託したいと思います。以上です。

(I委員)

海陽町から参りました、Iと申します。よろしく願いします。私が海陽町に移住してきて、もう9年が経ち、総合型地域スポーツクラブというスポーツ施設に関わるようになってからは、7年が経とうとしています。海陽町では海陽愛あいクラブとしまして、総合型地域スポーツクラブの認知度が少しずつですが、高まってきております。設立当初は、スポーツ教室であったり、イベントなんかを中心に行ってたんですけども、だんだん年数を重ねるごとにですね、高齢者の出張型の運動指導に行かしていただいたり、そちらのほうで介護予防治療を行うということで、町から業務委託を受けたり、また2年前ぐらいからは、保健師さんと連携して、特定検診時の運動指導等も行っています。生活習慣を見直していただくというようなことも、業務委託としてやらせていただいてまして、行政とか民間のすき間の部分をスポーツクラブが埋めていければと思います。受講者数も上がり

つつはあるんですけど、やっぱり人口も少なく、その中でスポーツを行う方は全人口の数パーセントっていうようなデータもありますので、自分たちが法人化をして自立していくっていうのがまだ厳しいんですね。

今後の目指すべき県南の将来像について、ご意見をいただければと今回依頼があったんですけども、こういった総合型地域スポーツクラブっていうのは、地域に密着して、今後、人口減少、超高齢化社会が進む中、20年、30年経ちますと、町単位ではなくって、郡内であるとか、県南の圏域での機能の集約という流れになると思いますので、こういうクラブもですね、間違いなくそういうふうな道をたどっていくと思いますので、医療や行政のなし得ない部分のサポート的存在として、今後も継続できるように頑張っていきたいと思います。後継者の育成やスタッフの社会保障とか、まだまだ問題がたくさんありますが、県や町もですね、こういうクラブが今後も継続していけるように、色々サポートしていただければと本当に切に願っております。

あと、もう一つ、ちょっと話は変わるんですけども、さっきA委員のお話にもありましたが、私たちの海陽町の本当に1時間もかからない所に廃校の水族館ができて、ネーミングも本当に、できる前からちょっと道を通ったときに廃校？っていう感じで、何これ？という感じで、ちょっと目を引いたんです。実は名前を最初に学校水族館にしようかと決めてたらしいんですけど、やっぱり廃校にしようということで、すごくインパクトがありますし、あと、徳島県に水族館がないのがちょっと残念に思っていて、それが隣の町にできたのがちょっとそれも悔しいんですけど。しかもですね、予算が5億円って書いてたんです。それを高いと取るのか、安いと取るのかちょっと分からないんですけども、実は海陽町にも「マリンジヤム」っていうスポーツ施設があるんです。そこは、町の小さな水族館としまして、本当にちいちゃな水族館で魚とか飼ってるんですけど、インパクトがやっぱりちょっと少なく、なかなか集客が伸び悩んでるんです。さっきDMVで、ぜひ廃校水族館って言うんですけど、それに乗って行くような徳島県の目玉になるような観光スポットもできればなと思います。今、ここでそれが何かっていうの私もちょっと意見としては言えないんですけど、また思い付いたら言ってみたいと思います。以上です。

(J委員)

木頭から参りましたJです。今、ゆずの会社で働いておりますので、ゆずの会社についてのことをお話したいと思います。有機JAS商品が最近4商品ぐらい出来て、空港等で置かしてもらえたなあというふうに相談しているところなんです。、やっぱ表表紙、裏表紙、栄養成分表とかも英語と日本語と両方で表示するようにしまして、そういうようにポップも英語で書かなくてはいけないと思うし、そのようにしてインバウンド商品を県外の商品で盛り上げていって、県内だけではなくて、色んな全国でインバウンド商品の市場に出していければなというふうに思っております。

それと、最近、災害がすごく多いと思うんですけども、大雨が続いて、木頭地域でもいつもはできる伝統的な在来種の野菜が、全然出来なかつたり、畑を持ってるおばあさんたちとかでも野菜が採れなくて野菜不足で悩んでる時期がありました。今回の災害、色んな地域でコンビニから食料が消えたりとか、それでなくても日本は食糧自給率が低い国なのになんてなるのかと思います。また北海道も食糧貯蔵庫のような所ですし、そ

ういう意味で考えると、これからも災害に備えて、自らの食べ物は自らで作ったほうが良いんじゃないかと実感しています。私も移住組なんですけれども、夫は木頭出身なんですけれども、自給自足っていうと憧れるんですけども、もうこれは憧れプラス、今は必死みたいな感じにもなっているんで、それをうまく使えないかと思ひまして「自らの命は自らで守りませんか」というキャッチフレーズとか、国の食糧自給率は何パーセントだけでも、徳島県は何パーセントっていう、ちょっと威張る数字にしたりとか、高知の経済同友会さんのほうは幸福度っていうのをすごくアピールしてると思うんですけども、それに対抗して徳島県のほうは食糧自給率何パーセントっていうのを売りにしてみてもいいと思います。ここに来て、びっくりしたのが物々交換の量の多さで、町のほうだとこれぐらいでどうぞみたいな感じなのがキュウリとすだちをごみ袋に1袋ずつとか、そういう量なのでその豊かさっていうのをアピールしても良いかなと思いました。

それと、また災害なんですけれども、木頭は県境に位置してまして、よく出張なんかは高知を経由して、土佐山田から九州のほうに行ったりするんですけど、この間、豪雨の始まりの頃に土佐山田から電車に乗らなくちゃいけなくて、それで四ツ足峠の手前まで徳島県通行止めみたいな感じで、そこを越えたら行けるのかと思って行ってしまったら、四ツ足峠の先のほうがずっとひどい状態になっていて、その後、道路も崩落しましたし、管轄があると思うんですけど、徳島の四ツ足峠まで通行止めってすると、県外とかから来たりする人もそうだと思うんですけど、そこから先は行けてしまうんだなと思ってしまうので、その辺ってどうにかならないのかなと思います。

あと最後に、先ほど色々人とのつながりという話が出たと思うんですけど、人口が減って、一人二役、三役、四役っていうのすごく大きいと思うんですよ。田んぼの用水当番で、会社員で、消防団で、何々でって。皆さん色々な豊富な知識を持っているので、それがなんかざっくばらんに意見交換できる手弁当的な集まりがどんどん増えたら、この手はこの人と結んで、この人はこの人と手を結んでみたいことができるのかなと感じました。以上です。

(K委員)

Kです。よろしく願いいたします。まず、はじめに色々な所で災害が起きていまして、北海道では特にたくさんの方が亡くなられておりますので、ご冥福をお祈りしたいと思います。2点なんですけれども、現場で働いてる人の話をしますと、7月、8月に植林をすると。1年中大丈夫だっというお話は聞いているんですけども、そういう酷暑のときとか、それとか12月の寒い時期に植林する意義はなんですかねとちょっとお伺いしたいなど。大変暑いとき、寒いときっていうのは苗木も人にも大変な負荷をかけますので、もう少しやわらかくしたほうが良いんじゃないかなという感じはします。

それともう1点、時間も押してると思うので、簡単にお話しさせていただきます。環境税の使い方の提案なんですけれども、これから市町村、県から市町村のほうへどんどん環境税というのは降りてくると思うんですけども、色々な環境税の使い方がありますし、環境税は個人で1,000幾らかっというお金をこれから出すようになると思うので、やはり木材を搬出しているっていう点では大きいところだけでなく、小さくても少しでも生産材料出したらば、それを第2の流通に対して、幾らかっという上乗せっていうことも

お考えいただいたらありがたいなど。これで生産量も増えると思いますし、これが平等な使い方のように思われますので、よろしく願いいたします。

そして、知事さんのところにポスターも置かせていただいたんですけども、自伐ということで、色んな考えがあろうかと思えますけれど、まず自分でやるとか、自分でやらない人は、どういうふうにするかと、それはそれなりにやっていただいている方をお願いするしかないんですけども、まず自分でやる。そして、自立をする。先に少し色々と自立というお話が出てきましたけれども、やっぱり自立をする。そして、自由自在にするという皆さん考え方もありますので、色んな方法で生産業が上向きになって活性化に少しでもつなげれば良いかなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(L委員)

いつもお世話になっております。JA 海部のLでございます。私からは、きゅうりタウンについて少しお話をさせていただきます。きゅうりタウン構想をさらに強力に進める推進方策についてでございます。きゅうりタウン構想につきましては、これまでの総括として学ぶ場である海部きゅうり塾、そして、試す場として、次世代園芸ハウス、そして、この取り組みを伝える場として、SNS を通じた情報発信の取り組みを県、海部3町とともに総力をあげて取り組んできました。この取り組みの成果として、きゅうり塾で22名の塾生を受け入れ、就農者は17名、10経営体となっております。

現在、国の補助事業、産地パワーアップ事業や次世代投資資金等を活用し、経営を開始したところでございます。8月の15日から20日の間に4名の塾生が定植をしました。そして、また9月の中、下旬には収穫ができると思っております。また、この地域で、1ヘクタールぐらいのハウスが数棟出来ております。また、皆さまよかったですら、一度、海部のほうへお越しください。本当に見事なハウスでございます。また台風20号、21号の試練にも耐えられました。本当に知事さん、ありがとうございました。これから新規就農者の経営を成功させるとともに、これからきゅうりタウン構想の目標である産地拡大に向けた本格的な取り組みに発展させる重要な段階に来たと考えております。海部地域において、きゅうりタウン構想のチャンスをものにするため、この流れを絶やさないために施策の展開とご支援をよろしくお願い申し上げまして、私から簡単ではございますが、報告に代えさせていただきます。ありがとうございました。

(M委員)

那賀町の人あんまり住んでいない所に住んでおります、Mでございます。8月11日の山の日、南つるぎから、知事さんと一緒に登山を計画しておりましたけれども、悪天候のために中止になりました。非常に残念です。また来年ぜひ一緒にさせていただきたいと切にお願いをしたいと思えます。那賀町といえば、やはり四季美谷温泉。四季美谷温泉といえば、やはりジビエ料理だと思っております。徳島県では一番進んでいると自負いたしております。それで、ジビエ倍增モデル地区マスタープランの取り組みと第5回ジビエサミット徳島大会の内容についてお伺いしたいと思います。

それともう1点、私、人の住んでいない所に住んでおりますので、災害等のときには非常に困っております。県が委託されている黄色いパトロール車。パトロールの業務につい

で大変よく巡視してくださってることを記憶しております。ただ、数を増やしていただければ、やはり地元の住民も非常に安心するのではないかと考えております。以前は、県の職員の方が毎日のように巡視活動をしていただいていたように記憶しております。できれば1回のところを5回にするとか、ぜひそういう増やし方をしていただければ、地元住民は大変ありがたく思います。よろしく願い申します。以上です。

(N委員)

まずは台風のことについて、意見がございます。まず、この土日も台風じゃなかったんですけども、すごい雨と風で持井橋の近くの木が道のほうに垂れてまして、通りにくかったんですね。それで、土木さんのほうに電話をしたんですけど、土日なので休みなんです。そしたら、コールセンターに繋いで下さいっていう案内があったりで、県庁の守衛室の番号に連絡したんですが、土日の緊急時にもっと分かりやすい県の窓口みたいなのをみんなに周知していただければと思います。今回は、木が垂れ下がってきてますと、それと前に穴が開いたときは警察へ言ったんですけど、非番でジャージ着てたのに、すぐに現地に来て、対応してくれたんです。でも、何でもかんでも110番もしにくいので、そういう窓口を分かりやすくしてください。

それと先ほどC委員がスピーカーが聞こえにくいとおっしゃっていましたが、私の近くの人たちは、ダムの方流に非常に敏感になっています。あのスピーカーは普段は聞こえるんでしょけど、台風とか風があると全く聞こえなくて、前回も聞こえないって言ったので、移動してくれたり、音量を大きくしてくれたり、テストとかもしてくれてるんですが、やはり聞こえないので、何か方法を考えていただければと思います。特に農業している人たちは、事前にハウスが浸からないようにとか、飛ばないようにとか、そういう準備をしているので、そういうスピーカーを当てにしているみたいなのでお願いいたします。

それともう1点台風の件で、前回、ここの会議で土手がもし切れた場合とかの説明みたいなものをして欲しいということをお願いしてたんですが、国交省の方が吉井地区の土手の説明に来ていただいて、非常によく分かって勉強になったんです。この間がけが崩れたりとか、台風が来るたび、もしかしたら、本当に切れるんじゃないかっていうような不安がやはりございます。台風が来るたびございます。深瀬地区の土手がすごく新しいものになったり、加茂地区が知事さんのおかげでどんどん土手ができております。やはり弱い所が切れるような気がするので、古い堤防の修繕というのも積極的に取り組んでいただけたらなと願います。

続いて別の話で、次は道と観光のことなんですけど、毎回ここでお願いして、県の方も知事さんも本当に取り組んでくれているんですけど、櫛淵インターができて、金石を通過して、黒河バイパスを通過して、那賀町に抜けていく道、これは本当に経済の道でもあるし、色んな面で必要な道と思うんです。今は本当に通りかねております。この間、吉野川のラフティングとか色々外国の方がおいでで、にぎわってますけど、那賀川もカヌーが那賀町にあるので、「野球の町阿南」って言うてみたいに「カヌーの町那賀」というように大きくPRしていただいて、外国人の方が来るような呼び込みをしていただけたらと思います。この道の所にですね、いつも那賀に行くときにその道を通るんですけど、桑野のほうから回るとき、ガードレールが杉だったりして、非常におしゃれな、もう一度通ってみたいくなる

ような道なので、もし新しい道ができるのであれば、ガードレールはぜひ杉が良いとか個人的に思っております。

最後に話は変わるんですけど、介護のことについて、思うことがございまして。私たちの年代もそろそろ介護が本当に切羽詰まったと言われるようになっておりまして。特に加茂谷は2,000人しかいないんですが、42パーセントが後期高齢者。資料を読ませていただいたら、県の高齢者の人口比率が34.8パーセントと書いております。施設に入りたくても、みんな近くに行きたいので、ベッド数とか部屋があるのに5倍も6倍もの方が同じ施設に行きたいっていうことで、家でデイサービスとか行っているときは、順番やけん仕方ないよなど、待っているんですけども、それが突然病気で手術して、病院って2週間いたら手術しても置いてくれないんですよ。総合病院は。その後ですね、行く所がなくてですね、困っているっていうのが現状で、その話をあっちこっちで聞いてます。国の話かも分かりませんが、その対策も県民と一緒に考えていただければありがたいなど近々痛切に感じています。以上です。

(阿南市長)

貴重な時間でございますので、簡潔に申し上げます。C委員の防災無線が聞こえにくいとのことですが、最近の家は密封性が非常に高まりまして、ご迷惑掛けております。ただ阿南市におきましては、電話対応サービスを導入しておりまして、電話で放送内容を確認することができるんですが、これもいわば気休めだと思います。最終的には各戸にですね、停電でも聞こえる防災ラジオというものを普及させていかなきゃいけないということで、まだ決定ではありませんけども、取りあえず災害弱者の方々のお家にですね、配布する、これはぜひ国策の一環としてやってもらいたいとは思っております。

それからもう一つ、6次産業化についてです。群馬県の太田市にはブラジル人がたくさんおります。産業都市ですけども、2つのJAが太田市の商工会議所に加入しました。本当に6次産業やるんだったら、当然の姿だと思います。JAも商工会ですから。だから、私は1次産業も商工会議所、あるいは阿南高専とかですね、そういうものを使って、産業会議みたいなものを県南で作って、統一ブランドでですね、やっていくようなことをL委員にぜひ考えてもらいたいと思います。L私案をですね、早急に出してもらいたいと思います。最後になりますが、安倍総理がこの間来まして、すだちのことをカボスって言ってたんです。カボスは柑橘の女王なんです。私はスタヂは柑橘の貴婦人と思ってます。柑橘の貴婦人で売り出すようにしています。知事さん、どうでしょうか。以上でございます。

(那賀町長)

はい。那賀町長の坂口です。先ほどJ委員さん、M委員さんから災害の関係でご発言がございました。今年は本当に雨が多く、先般の、北海道の地震で土砂崩れがあるとは想定もしてなかったんですが、すごい災害だなと思っております。北から南まで、日本全列島災害だらけで、次は四国やられるかとも心配はしているんですが。7月の豪雨、そして今回の台風と本当に先ほど中川さんからのお話がありましたように、那賀町でも、木頭の出原と和食で浸水対策工事をやっていただいております。この工事が本当に完成するまでは豪雨は来るな来るな来るなと祈っている現状ですし、県のほうも本当に本体工事につ

いては、予算の措置もしていただき、工事も本当に十分やっけていただいております。那賀町としても、今回の議会でも内水対策とか色々出ておりますが、そのことは気にせず本体に専念していただき、早急に完成をお願い申し上げたいと思います。本当にまだまだ台風の時期でもございます。先般の台風は本当に195号で先ほどJ委員から話があったように県境高知県と、あそこで止まれ止まれ言うたら止まってくれたんですよ。高知がちょっと気の毒だったんですけど、物部から愛媛にかけて、大きな災害があって、那賀町は山で止まってくれて、良かったなと思ってるんですけど、いつ越えるか分かりませんので、我々としてもその分については対応をしていこうと思っております。K委員から環境税の話も出ましたが、これはまた知事さんと別の会議でお願い事等含めて、お話をさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

(牟岐町長)

今日はですね、観光、地方創生、それと防災についてのご意見が多かったと思うんですけども、牟岐町のB委員はですね、町外からお越しいただいて、本当に頑張っけていただいております。民泊とか、それから体験型観光ですね。そういうことに取り組んでいただいております。そういう中では牟岐町のサポートが本当に弱いなということを感じてるんですけども。今、観光協会を立ち上げるということで頑張っけてるんですけども、要は県のほうでDMOを立ち上げていただいて、牟岐町でその窓口を一元化したいな、または観光協会に色々な施設の管理をしていただきたいなと思ひまして、そういうことに取り組んでおります。体制として非常に不自由なところございまして、支援が非常に弱いなということで本当に申し訳ないと思っております。

それと防災についてはですね、本当に町の職員だけでは全体の十分な牟岐町の防災のことは難しいような状況になってございまして、やっぱり地域防災計画もございまして、自主防災組織はしっかりした計画を作っけて、行動に移していただく、そういうふうな行動がどうしても必要だなということで、自主防災組織の方々にお伝えして、何とか作っけてくださいということをお願いしております。

先に気象庁のほうはですね、マグニチュード7クラスの地震が、南海トラフのその海域で発生した場合は、臨時情報を出しますよと言っています。それを出した場合にどのような行動をするかっていうのが、地域で準備できていないと思ひます。対応はばらばらになると思ひますので、やっぱり自主防災組織は臨時情報出たら、我々はどこに避難するとか、要援護者はここに避難するとか、そういうふうな対策を事前に十分詰めておいていただきたいなと思ひます。それから食糧、水等についてもですね、やっぱりその地域ごとに決めていただきたいなと思ひます。もちろん町でも用意するんですけど、そういうふうな対策をどうしてもやっけていただきたいということでお願いしている状況でございまして。以上です。

(美波町長)

美波町の影治です。よろしくお願ひします。意見とかたちでも構いませんかね。今日14人の委員の皆方から、お話・ご意見等聞きまして、今、牟岐町長さんおっしゃられたように観光であるとか、それからDMO、インバウンドとかいうような期待のある、ご

意見をいただいたと思っております。

DMOを去年のちょうどこの会議のときに、1日も早く立ち上げられるようお願いしたいというふうなことを申し上げて、今年の3月に設置していただいて、7月には広告を打つということで着実に進んでいっていることに本当に感謝を申し上げたいと思います。それと併せまして、4大大会ということで2019年がラグビーで、徳島県におきましてはジョージアのキャンプ地というようなことと2020年のオリパラのときは、ドイツもホストタウンということですね。2021年はワールドマスターズというふうになっております。インバウンド自体は、美波町も毎年のように数が増えているということもありまして、私たちもしっかり頑張るんですけども、1市4町で手をつなぎながら、そして、皆さま方のお力添えも経て、短期集中っていうんですかね、この3年間を特に短期集中型の何かいい言葉、先ほど話しがありましたような、スローガンみたいなのを立てて、この資料3の2番目の「四国の右下」観光産業による地域活性化っていう3本を一つずつの柱じゃなくて、円が重なるようなと言いますか、それぞれが連携してできるような一つの取り組み、特にこういった世界大会というのは、まれにみる3年間っていうことになりすから、それに合わせて観光であったり、インバウンドであったりっていうのを集中的にやって、その後もそれを引き続いてやっていくっていうようなことを、しっかり今年は取り組んで行くべきかなというふうに考えます。私たちも頑張りますので、またよろしくお願い申し上げまして、終了とさせていただきます。

(知事)

まずは14名の委員の皆さま、積極的にご提言をいただきまして本当にどうもありがとうございました。また各市長さん、町長さんにおかれましては、それぞれご質問に対してのご対応いただいたりとか、あるいは、今、影治町長さんからは今後のこの県南のインバウンド、4大スポーツ大会に向けてのご提言をいただいたところでありまして。またH委員からもお話がありましたように、海部郡に皇太子殿下が、特に海陽町には初めて入られたところでありました。その意味ではその随行で影治町長さん、また福井町長さんには大変お世話になりました。またH委員もお疲れさまでございました。

そうしたかたちで、今14名の皆さん方からいただいたご提言で、何名か私からもお話を申し上げたいと思います。まずA委員から、徳島として県政史上初となる季節便ではありますけど、定期便がいよいよ香港との間で飛ぶと、12月からと。ここはイン・アウト両バウンドになりますので、これまで、ここの定期便につながるのは連続チャーター、二度にわたって、これが搭乗率が84パーセント以上だったんですね、キャセイドラゴンで。それはこの季節便とは言いながらも、定期便につながったということですから、これからは、やはり利用率、特に向こうからかさむんですけどね。こちら側からどれだけ乗って行くかが勝負ということになりますので、こうした点、また広げていただければと。その意味ではやはり海外の皆さん方は着地型観光、Wi-Fiが重要なんですね。徳島の場合には全県下でWi-Fiが使える。しかも、平時は観光にいざ発災のときには災害対応にということで、整備率は日本断トツ1位の91.7パーセントとなっております。今、お話しがあった、これからの対応は、やはりいざ発災となったときにインバウンド、この皆さん方にどう伝えるかといった点もご提案いただきましたので、しっかりとそのモデル

を作っていければと、このように考えております。

それから、C委員から漁業BCP、この話があって、じゃあ県内の漁協とではなかなかお互いご辞退しちゃうんで、じゃ、どことのつながりを持ったらいだろうか。自分たち独自やんなきゃなんないだろうかというお話しですが、実はこれ我々隔遠地協定ということで、平成16年度の時に徳島から提案をして、同時被災を受けない、例えば、我々のように南海トラフの巨大地震を受けない、防災意識が高く、なお近い所ということで、鳥取が手を挙げてくれたので、当時は片山知事、今は平井知事さんっていうことですけどね。そこで県同士、また市同士、町村はそれぞれ数が違うので町村会同士と。実は阿南市が、実は米子市と結んでいるということがありまして、米子も漁業の盛んな町です。ということで、そうした漁協の皆さん方を市の皆さん方と、あるいは県との間でしっかりお話しをいただければ、そうした場をお作りをすることができるんじゃないか。また漁協同士というのは作っていないんですね。実はボランティアの受け入れっていうのがあるので、社協同士、これはやっているんです。県社協同士。あとは企業同士も、やはりお互い目の見える、例えば、部品や何かが必要だ、お互いに互換性があるということで中小企業団体中央会同士、平時においてはお互いが将来、いざ発災というときはその顔の見える関係を活かして様々なサプライ、これをしっかりと担保して行こうとしてるところでありますので、今回いただいたご提案っていうのはもちろんこれ農協の話にもつながってくるかとは思いますが、今後の新たなかたち、平井知事ともお話を。また阿南の皆さんと米子の皆さんのときは、これは岩浅市長さんにもまたお願いをしてみたいと思いますので、貴重なご発言ありがとうございます。

それからD委員からいただいた、仙台から帰ってきて不便っていうお話で。実は今、昨年7月24日から、日本の有史以来初めてとなる、この国の政策創造の場、消費者庁、消費者行政新未来創造オフィスが県庁の10階に展開するということが、当時の河野大臣、今は外務大臣、外務大臣としてこの間来られ、1日は総理が現職総理で初めて県庁に視察に来ていただんですけどね。高評価をいただいたところです。ということで、実はエアラインも国民生活センターの研修で四国、中国、そして関西は原則徳島に向けるということになってまして、実は河野大臣とは当時、九州、西と東で分けようとしていたんですが、それまでやったテストで、九州、特に宮崎の皆さん方が、徳島不便だと、相模原とかが良いってこう言われちゃったもんですから。その後エアラインの皆さん方にも河野大臣からも私からもお願いをして、実は、今、羽田をハブとして、東北地方、仙台は逆に新幹線が近いもんですから、羽田との間、結べませんので、仙台より北のほうの空港ですね。あるいは北海道、那覇空港、そして、北陸、さらには福岡便が2便になって、今、ジェット化しましたんで、沖縄、そしてその、一番不便だと言われた宮崎、これを取り継ぎ割引料金。もちろん繁忙期は安くはならないんですけどね。安い時期になると逆に7割以上引いてくれるという形にこれなっております、それを阿波踊り空港の時刻表の中に載せさせていただきます。料金のセットをですね。ということで、是非そうしたかたちで、我々も努力を続けていきたいと思っておりますので、そうしたものの利活用、これもぜひお願いをしたい。残念ながら、仙台はちょっと、仙台-羽田がありませんので、すいませんが、よろしくお願ひ申し上げたいと思っております。

それから、E委員からいただきました、中途採用の話ですね。確かに、今、中小企業、

小規模事業者の皆さん、採用がなかなか、この有効求人倍率では難しい。お話のとおりです。そこで、今、切り口をおっしゃっていただきました。障害者、高齢者、外国人と。外国人の雇用については、我々徳島から政策提言をして、今回概算要求に既に載っているんですが、外国人の皆さまがたのビザ、就労ビザ、これをもっと弾力的にと。例えば、我々地方公務員でジェット制度っていうのがありますね。学校で英語、あるいはドイツ語等の指導助手として働く。あるいは CIR ということで国際交流員として働いていただく。ただ、この人たちって、これだけしかできないんです。例えば、この人たちの地域おこし協力隊に、その後、海外のインバウンド対策として残ってもらおうと駄目なんですね。だから、そうしたのも弾力的にと。あるいは小規模事業者の皆さん方が雇いやすくとかいう形を提案をしたところ、今回概算要求にようやく乗ったところでありますので、また年末までに少し、これは我々は商工会議所の皆さんと連携をしていく必要がありますから、しっかりと対応したいと。そして、さらには障害者の皆さんですね。ちょうど平成30年度から障害者の雇用を促進を2.0の法定雇用率が2.2に民間企業は上がったところです。それと同時に精神障害がベースに入ってきたということで、積極的に精神障害の皆さん方にも働いていただこうと、そこで、これも政策提言を今しております、例えば、これフルで働かないと1カウントしてもらえないんですよ。だから、せめて短時間労働の皆さん方も、今0.5っていう単位は一応あるんですけど、0.3とか0.2とかっていうものも、皆さん方の体調に応じて、そして、企業の皆さん方はその人たちをどんどん雇うことによって、その率を上げれると、win-win の関係を作り上げればと。このようにも考えておりますので、ぜひ障害者の皆さん方の雇用促進にもご協力をいただければと思います。

それからI委員からもご提案いただきました。この人口減少の中で、総合型地域スポーツクラブを市町村単位じゃなくて、例えば、海部郡単位でという形はどうだろうか。私は体育協会の会長を務めておりますので、そうしたありがたいお話についてはしっかりと、我々としても、租借をさせていただいて、じゃあ、それについての障害がどういった点であるのか、こうした点をこれは採用して、ブレイクスルーをして、おっしゃるとおりですね、これから、どんどん人口が減る時代になりますので。しかし、その一方で、例えば生活習慣病の予防であるとか、あるいは介護予防、こうした点についても今、社会福祉法人の皆さん方が老人ホームを活用して、地域のアクティブシニアの皆さん方に、例えばロコモ症候群対応ということで、そこで、じゃあ、フィットネスクラブやってもらおうとかです。そういった前向きの考えを老協協の皆さん方も進めてやっているものですから、県としても積極的にこれに支援をしていこうということをしておりますから、当然そうなるインストラクターはじめですね、皆さん方に必要になってくることがありますので、こうした場合については、ぜひご協力をお願いをしたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。ありがとうございます。

それから、K委員から、先ほど、坂口町長さんが森林環境税はまた事細かにというお話がありまして、ベースとしては人口、あるいは私有林を中心とする森林面積、さらには林業従事者、この3要素で配分をしていくということになっておりますが、今、お話があったように「いや、いや、そうは言ったって材を出した分も応じてやってもらわなきゃ」、おっしゃるとおりですね。このまま行くと、東京都とか大阪も結構もらっちゃうんですよ

ね。これも変な話ですので。ただ、この間、北海道で全国知事会が7月にありまして、このときに小池都知事が言われたのが今回の大阪の地震で、通学時に子どもさん、亡くなりましたよね。それで、東京都は一斉にそのブロック塀対策をやる中で、次にそれを目隠しとして、また作るのであればブロック塀じゃなくて木の塀でいきたいと。それを2, 3県は協力してもらいたいと。プロジェクトチームを実は知事会で作るようになって、小池都知事に準備リーダーなってもらってるんですけどね。我々としては、これも逆に大きな商売になるなど。そのためには、まず、そのモデルを徳島からということで、今回もまもなく9月議会が始まるんですが、ここに補正予算をかけて、できれば今年度中に県の施設、あるいは学校ですね。こうしたものについてのブロック塀全部取り壊して、危ない所はですね。そして、これを全部、県産材の目隠しで、これをやろうと。できれば藍色に染めたいなというふうに思いまして。なぜ藍色か、これを東京都に売ろうということなんです。東京はオリパラの公式エンブレムが組市松紋の藍色ですから、これは小池さんにとったら、まさに喉から手が出るぐらい欲しいものなんです。ということで、我々として、まずそのモデルを県から、そのためには市町村の皆さま方にも協力をいただくために、そうしたご支援を。あるいは民間企業の皆さん方といいますか、あるいは個人の住宅とか、こうした所についても取り壊すものに対しての支援をと、例えば、耐震化促進の補助金があるんですけど、こうしたものにもブロック塀、これセットで壊す分についてはOKにしようと思うんですね。あるいは、そうしたものの助成をどうしていくかと。今回の9月補正でその案を出していきたいと考えておりますので、また、これも注目をしといていただければと考えております。よろしくお願いいたします。

それからM委員、大変残念でした。南つるぎ、初めてあそこから登る予定だったんです。結局、また、向こう側ですよね。西のほうから登ることになってしまいました。ぜひ次を楽しみにしております。

またN委員のほうから総合病院に入って、2週間以内で出されてしまうと、これはもう今、国全体の方針でありまして、何とか10日を切ろうというのが県内の病院で10日をようやく切れてるのが徳島赤十字病院、それから県立中央病院になってるんですよね。それで、実は何故こういうことをしなきゃいけないかという、みんな手術待ちになっちゃってるんですよね。だから1日でも早く、例えば、がんでもオペをしてあげたいと、回転を良くすると。急性期、特に3次医療はそうしてるんですね。それで、今、国のほうからさらに厳しい話が来まして、例えば、全く紹介状を持たないで、県立中央病院に行ったら、ものすごく高い受診料を取りなさいとなっちゃったんですね。前は、努力だったんですけど、今度は取れということになって、条例の改正をしたところなんですけどね。ということで実は地域のかかりつけ医の皆さん方とお互いにそこから紹介を受ける。そして、逆に逆紹介ということで県中に入って、後のケアをまたそこに戻す。逆紹介というのを非常に強く今やっていると。ですから、地域のかかりつけドクターの皆さん方をよく訪ねていただくと。そして、そこから紹介して、それぞれの病院へ、そのうち今度は阿南の医療センターも出来上がってきますので。そうして、またっていかたちで、お互いにこの相互ケアっていうものを進めるのが今の日本の国の今後の2025年に向けての方向と。これ医療介護ともについてということになっておりますので、その点についても、ぜひ地域の皆さん方にお知らせいただければと思います。ということで、皆さん方からいただいた貴

重なお提案こうした点についても、しっかりと租借をさせていただいて県政の中に活かしていきたいと考えておりますので、これからもご提言よろしくお願いたします。本日はどうもありがとうございました。